

移動・回送中の資材・重機が上空支障物に接触する事故が多発！

資機材の輸送中及び重機の移動中に架空線に接触、損傷させる事故が連続しています。

架空線は地下埋設物と同様に重要なライフラインの可能性があり、重大な社会的影響をおよぼす恐れがあります。

工事完成に伴う資機材、重機等の搬入・搬出が増える時期であり、各現場においても作業エリア内と同様に移動・輸送ルートについても、上空支障物の有無や荷姿の確認等安全対策を確実に実施し、再発防止に万全を期してください。

バックホウの回送中にボックスカルバートに接触！



事故発生現場

〔事故事例①〕

バックホウをトレーラーで場外搬出する際、ブームの格納が不十分だったため、進入した（未供用）ボックスカルバート（H=4.9m）にブームが接触し、ボックスカルバート天端部を欠損させた。



事故発生現場

〔事故事例②〕

バックホウをトレーラーで搬入する際、誤って本来のルートと異なる道路に進入し、私鉄のアンダーパスを抜けようとしたため、防護柵とボックスカルバート上部に接触、損傷させた。

〔事故原因〕

- ・バックホウのブーム格納後に荷姿確認を怠った。

〔事故原因〕

- ・バックホウのブーム格納後に荷姿確認を怠った。
- ・運転手が搬入ルートを誤り、アンダーパスに進入した。

対策① 重機搬送前にはチェックリスト等を活用するなど、必ず荷姿の確認を実施しましょう

作業エリア外（駐車場）で架空線に接触！

〔事故事例③〕

監視員を配置して作業エリア外の駐車場で砕石敷き均し後、使用していたバックホウを作業エリアに戻すため旋回したところ、駐車場入口にある架空線（電柱間の支線ワイヤー）に接触し、切断した。

受注者は作業範囲内の架空線に対しては、管理者協議、事故防止対策を実施していたが、事故箇所は看板設置や保護管等の事故防止対策を怠っていた。

〔事故原因〕

- ・作業エリア外のため、看板や目印旗等明示対策を怠った。



事故発生現場

対策② 重機が移動するエリア内全ての架空線を確認し、明示・保護等の事故防止対策を確実に実施しましょう

バケットを上げて走行中に架空線に接触！

〔事故事例④〕

バックホウが現場内坂道を登坂する際、バケットを上げながら（H≒1.5m）走行していたところ、上空で横断しているメッセンジャーワイヤー（H≒6m）に接触し、このワイヤーが接続している電柱が揺れ、その電柱から農業用のポンプの制御盤に繋がる電力引き込み線が切断された。

受注者は、作業標準で「バケットを上げたまま移動しない」事を定め、架空線に対する注意喚起やバックホウのアームに「架空線注意」のステッカーも貼り付けていたが、作業範囲外であったことから事故防止対策を怠り、オペレーターも架空線がある事を失念し、バケットを上げて走行した。

〔事故原因〕

- ・作業エリア外のため、看板や目印旗等明示対策を怠った。
- ・架空線への注意喚起は行われていたが、オペレーターが失念していた。



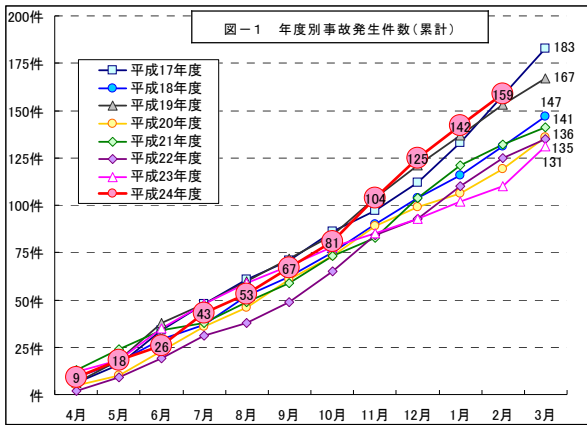
事故発生現場



対策③ 一時的に重機が架空線下を走行する場合にも、誘導員の配置等可能な対策を実施しましょう

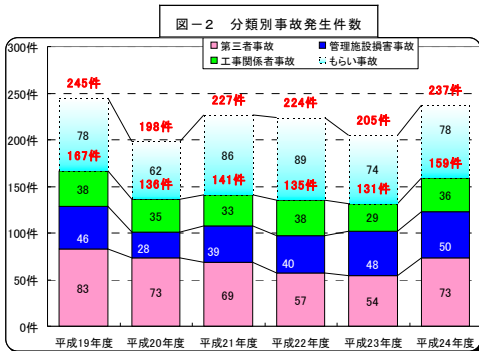
過去最多の平成17年度を上回る事故発生件数！

～平成24年度 2月末時点 管内事故発生状況(速報値)～



今年度の事故件数は、昨年末から平年を大きく上回るペースが続き、過去最多であった平成17年度同時期(158件)を上回る最悪のペースです。今一度関係者全員の安全意識の向上と現場内の安全点検を徹底しましょう。

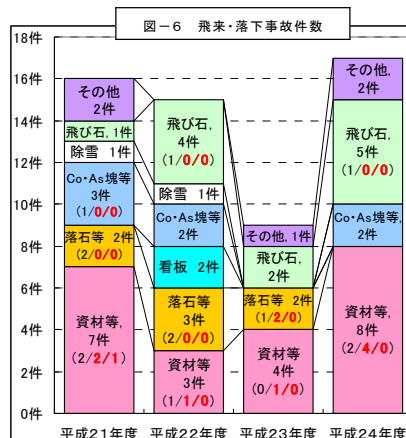
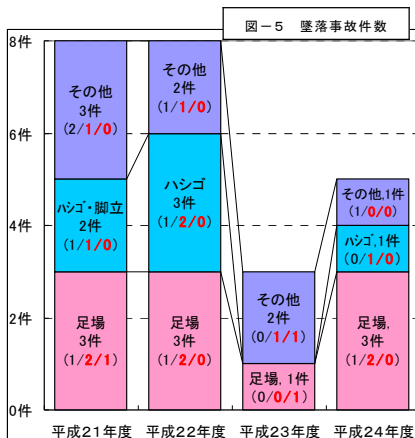
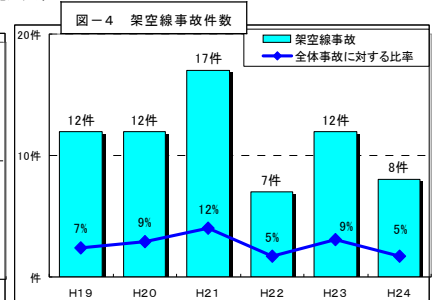
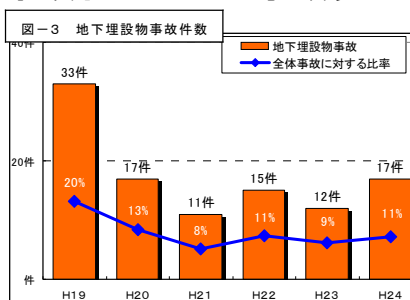
- 2月末の発生件数159件は、昨年同時期に比べ49件の増加で、過去5カ年で最多の平成19年度の153件(通年167件/年)を超え、年間件数で過去最多の平成17年度の183件/年に迫る状況。
- 11月以後の月別事故発生件数は、毎月過去最多の件数を記録。
- もらい事故78件は、昨年度同時期から13件増加し、過去最多の平成22年度同時期の80件に次ぐ発生件数。



- 工事関係者事故36件は、昨年度同時期から11件増加し、過去5カ年で最多の平成19年度に並ぶ件数。
- 管理施設損害事故は、昨年度同時期に比べ10件増加し、既に過去最多の年間発生件数(H23年度48件/年)を更新している。
- 第三者事故のうち、人身事故は昨年同時期と同じ8件で、例年の中位の発生状況。
- 第三者物損事故73件は、昨年同時期から28件も増加しており、特に一般車等の損害事故は、昨年同時期11件から29件に増加(前年比263%)し、著しく増加している。

平成24年度 事故防止重点対策項目における事故発生状況

- 地下埋設物事故は、既に昨年度通年の12件を超え、平成19年度以来20件を超過する恐れがある。
- 架空線事故は、昨年同時期の9件とほぼ同数の8件であるが、1月末からの約1ヶ月間に集中して3件発生し、今後の増加が懸念される。
- 車両管理業務における事故は、昨年同時期と同数の16件が発生。



- 墜落事故は、昨年度通年の3件から増加して既に5件が発生、半数以上が中・重傷化している。
- 飛来・落下事故が増加し、昨年通年の9件から倍増の17件に達している。
- 特に、重点対策項目である「資材・仮設材及び工具」の飛来落下事故が平成21年度以降最多となり、負傷者数も昨年の重傷者1名のみから6名(微・軽傷者2名+中・重傷者4名)に大幅に増加している。

建設業年度末労働災害防止強調月間

多くの工事が完成を迎える年度末においては、様々な工事が輻輳して行われることにより、労働災害が多発することが懸念されます。特に強調月間内においては、店社と作業所が一体となって、労働災害防止活動を積極的に展開し、『事故ゼロ』を目指しましょう。

実施期間：平成25年3月1日～3月31日

主唱：建設業労働災害防止協会

